

本日の論点（案）

論点 日本の人文学及び社会科学が抱える課題が他にないか。

これまでの審議を踏まえると、日本の人文学及び社会科学が抱える課題として、他に考えられるものとして、例えば、以下のような課題が考えられるがどうか。

○学問と社会との関係に関する課題について

【留意事項】

- ・ 法学や会計学など、社会科学の中でも専門性の高い実務の「知」との交流が不可欠な分野では、学問が社会との関係を維持していくことが、学術上も重要な意味をもつと考えられる。
- ・ 学問が実感を持って社会の支持を得られるかということが、振興を図る上での鍵になるのではないかと（学問の社会的な存在意義）。

論点 社会科学の特性をどのように位置付けるか

人文学については、「他者」との「対話」という人文的な方法を中心とした学問と位置付けているが、社会科学については、どのように位置付けるか。

これまでの審議を踏まえると、例えば、

○「関係性」の束としての「社会」の構造、変動、制度、規範についての「説明」と「理解」（「評価」を含む）

といった案が考えられるがどうか。

論点 社会科学の研究対象をどのように位置付けるか。

人文学については、「精神価値」、「歴史時間」、「言語表現」、「メタ知識」と位置と位置付けたが、社会科学については、どのように位置付けるか。

これまでの審議を踏まえると、例えば、

○社会構造 （実証的な政治学、経済学、社会学等）

○社会変動 （政治史、経済史等）

○社会制度 （法学、行政学等）

○社会規範 （法哲学、政治哲学、経済思想等）

といった案が考えられるがどうか。

論点 社会科学の研究対象としての「社会」をどのように定義するか。

自然科学との対比を意識すると

○存在するものとしての「自然」に対して、**作られたものとしての「社会」**

人文学との接続を意識すると

○「『他者』との『対話』」の場、即ち**「関係性の束」としての「社会」**

論点 具体的な評価の指標（観点）として何が考えられるか。

これまでの審議を踏まえると、人文学及び社会科学の評価にあっては、定性的な評価が重要であると考えられる。また、具体的には、複数の「知の巨人による評価」のシステムが必要という方向性の議論となっていたと思われる。

残された課題としては、以下が考えられる。

○具体的な評価の指標（観点）として何が考えられるか。

○定性的な評価システムを担う「知の巨人」を選ぶ基準は何か。あるいは、「知の巨人」とはどのような性格の人か。

論点 「市民」の育成について、どのように考えるか。

これまでの審議を踏まえると、ポリシーリテラシーの育成という観点から、「市民」の育成がとらえられている。

国や地方の統治機構の仕組みや、主要国の基本的な社会経済データといった知識・技能の問題が中心であったが、**公共精神とか「社会的弱者」への配慮、国際協調の精神といった価値観に関わるような問題についてどのように考えるか。**

また、「市民」の育成に大学等の人文学及び社会科学の研究者が具体的にどのような役割を果たせるのであろうか。

なお、以上の問題を深めていくと、おそらく**「社会における知」をアカデミズムの側がどのように考えるのか**という問題にもつながると思われる。

【参考】これまでの主な意見

○ 明示的・暗黙的な市民教育が重要な役割である。

○ 「市民」の政治参加ということを考えた場合、ポリシーリテラシーの涵養が必要である。具体的には、国や地方の統治機構の仕組みや、主要国の政治、経済社会、歴史の基本情報について、基礎的な理解が必要である。政治学や経済学といった社会科学、地域研究などの成果の活用が期待できる。但し、社会科学の場合には、「知」は学問の中のみあるのではなく、社会の中にあることも踏まえておく必要がある。